



日本ワクチン学会 ニュースレター

vol.29

目 次

1. 第19回日本ワクチン学会学術集会を終えて
第19回学術集会会長 尾崎 隆男2
2. ワクチン関連トピックス
 - I) 『髄膜炎菌感染症と予防ワクチン』3
 - II) 『感染性のある2型ポリオウイルスを含む材料の
containment について』4
3. 2016年日本ワクチン学会第11回高橋賞・第5回高橋奨励賞応募要綱4
4. 会員会告
 - 1) 2015年度第1回日本ワクチン学会理事会議事録(2015年4月24日)6
 - 2) 2015年度第2回日本ワクチン学会理事会議事録(2015年9月7日)9
 - 3) 2015年度第3回日本ワクチン学会理事会議事録(2015年11月13日)13
 - 4) 2015年度第1回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録(2015年9月7日)16
 - 5) 2015年度第2回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録(2015年11月13日)
.....18
 - 6) 第19回日本ワクチン学会総会議事録(2015年11月14日)19

§ 第 19 回日本ワクチン学会学術集会を終えて

第 19 回学術集会会長
尾崎隆男

江南厚生病院こども医療センター

第 19 回日本ワクチン学会学術集会を、2015 年 11 月 14 ～ 15 日の両日、愛知県犬山市の名鉄犬山ホテルで開催いたしました。交通の便が決して良いとはいえない上、会長が雨男であるためか予想通り雨勝ちの天気でしたが、800 人もの方々にご参加いただいたこと厚く御礼申し上げます。

本学術集会は「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」のテーマの下に行われました。近年、わが国のワクチン開発および施策の遅れを称して「ワクチンギャップ」と叫ばれ、寂しい思いをした学会員は多かったと思われます。しかし、例えば、わが国で高橋理明先生によって開発された水痘ワクチン、佐藤勇治先生によって開発された無細胞百日咳ワクチンは、今世界中で使用されています。かつてわが国は、確かにワクチン先進国であったのです。かつてのワクチン先進国時代を取り戻し、それを維持するには「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」の充実・発展が肝腎と考え、それをそのまま本学術集会のテーマとしました。

特別講演の題材に水痘ワクチンを取り上げ、その黎明期に多くの臨床試験を行った浅野喜造先生にお願いしました。次期会長講演（武下文彦先生）では、今回のテーマの「オールジャパンでの新規ワクチン創成および接種環境向上に向けて」に、今回のテーマに通ずるものを感じました。招待講演（Joon Haeng Rhee 先生）では、韓国が国を挙げて行っているワクチンの開発・普及の現状を解説いただき、高橋賞受賞記念講演（庵原俊昭先生）では、菅先生が代読されたメッセージに庵原先生の臨床研究に対する情熱がこめられてお

り感銘を受けました。教育講演 1（葛島清隆先生）では、今その進歩が注目されている「がん免疫療法」を解説いただき、教育講演 2（多屋馨子先生）では、ワクチンの有効性と安全性をキーワードに、ワクチン関連トピックスをお話いただきました。

シンポジウム 1「ワクチン発展のために臨床家は何かができるか」の意図は、本学術集会のテーマ「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」を実践してくれる臨床家の増えることを願ったものでした。4 名の演者から、その意義と具体的な実践法が示されました。シンポジウム 2「ワクチンにより免疫はいかに構築されるか」は圧巻でした。3 名の演者の講演はどれも非常に高いレベルの内容で、たとえ理解できなくてもワクチン学・免疫学の奥の深さが垣間見え、強い衝撃を与えるものでした。9 題の教育セミナーの全てがほぼ満席状態であったことには安堵しましたが、準備したお弁当が不足して多大なご迷惑をおかけしました。一般演題に 91 演題の応募があり、全演題を口演発表していただきました。なお、企画セッションとの同時進行を避けたため、一般演題の発表は 4 会場で同時進行となり、聞きたい一般演題が聞けないという事態の発生はやむを得ないとはいえ残念でした。

本学術集会のテーマには若き臨床家への激励の意味が込められています。本学術集会が、基礎研究者と一緒に研究をやっていきたいと考える若き臨床家、また臨床家と一緒に研究をやっていききたいと思う若き基礎研究者の誕生に、さらには両者による共同研究の充実・発展に、少しでも貢献できたならば幸いです。

§ ワクチン関連トピックス

トピックス I

髄膜炎菌感染症と予防ワクチン

川崎医科大学小児科
中野 貴司

髄膜炎菌 (*Neisseria meningitidis*) はグラム陰性の双球菌で、莢膜多糖体の免疫化学的特性により 13 以上の血清型群に分類されます。ヒトへの病原性が問題となるのは、主として A, B, C, W, X, Y 群です。無症状の保菌者も存在しますが、血液や髄液に本菌が侵入すると、菌血症や髄膜炎など重篤な感染症を発症します。本来無菌的な身体部位から髄膜炎菌が分離される感染症は、侵襲性髄膜炎菌感染症 (invasive meningococcal disease, IMD) と総称されます。

細菌の殺菌活性に関与する抗体や補体系に機能異常を認める免疫不全宿主は、本菌に対する感受性が高く、IMD のリスクは高くなります。脾臓摘出患者や解剖学的・機能的無脾症も、同様にハイリスク者です。HIV 感染者においても、IMD 罹患頻度の上昇が報告されています。

アフリカサハラ砂漠周辺の「髄膜炎ベルト meningitis belt」地域 (西はセネガル、ガンビア、ギニアビサウ、ギニアからマリ、ブリキナファソ、ニジェール、ナイジェリア、チャド、スーダンなどを経て、東はエチオピアにいたるアフリカ大陸を横断する地域) は、世界最大の流行地です。欧米諸国でもしばしば流行は報告され、10 代後半の集団生活では感染機会が増加するため、米国では 11 歳での定期接種を推奨しています。したがって、日本からの米国留学に際して、ワクチンの接種を要求されることがあります。英国では 1990 年代終盤に患者の増加を受けて、乳児への結合型ワクチンを定期接種に導入しました。国境を越えて伝播する感染症としてもよく知られ、イスラム教のメッカ巡礼を介して感染が拡大したことがあり、サウジアラビアはメッカ巡礼時の入国条件としてワクチン接種済みであることを要求しました。わが国では、第二次世界大戦直後は数千名の患者が報告されていましたが、近年は諸外国と比べて保菌者の割合や IMD の罹患率は低い状況です。しかし、2011 年には高等学校の全寮制運動部寮で集団感染が発生し、1 例の死亡を含む 5 例の感染者が報告されました。

IMD は病状の進行がきわめて速い場合があり、軽視できない疾患です。劇症の経過をたどる症例では、紫斑の急激な拡大、血圧低下、多臓器不全などを来します。剖検所見で急性副腎出血が見られることがあります (Waterhouse-Friderichsen 症候群)。後遺症としては、聴力障害、言語障害、知能障害、麻痺、てんかん、壊疽による四肢の変形や瘢痕などが知られています。

わが国では 2014 年 7 月に 4 価髄膜炎菌結合型ワクチン (商品名: メナクトラ® 筋注) の製造販売が承認され、2015 年 5 月から接種が可能となりました。本ワクチンの主成分は、4 種類の髄膜炎菌莢膜多糖体 (血清型群 A, C, W, Y) がジフテリアトキソイドに結合されています。本ワクチンは、米国では生後 9 か月から接種が可能ですが、国内第Ⅲ相臨床試験は 2~55 歳の日本人健常者を対象として実施されました。したがって、2 歳未満の幼児に対する有効性及び安全性は確立していない旨が添付文書に記載されています。

エクリズマブ (商品名: ソリリス® 点滴静注) 治療の対象となる患者では、本ワクチンの保険給付が認められています。エクリズマブは抗補体 (C5) モノクローナル抗体製剤であり、発作性夜間ヘモグロビン尿症、非典型溶血性尿毒症症候群の治療薬です。エクリズマブは補体 C5 の開裂を阻害し、終末補体複合体 C5b-9 の生成を抑制すると考えられ、その使用により髄膜炎菌など莢膜を有する細菌による重症感染症のリスクが増すためです。

トピックス II

感染性のある 2 型ポリオウイルスを含む材料の containment について

国立感染症研究所感染症疫学センター
多屋 馨子

世界中でポリオ根絶に向けた取組が進められている。日本を含めた WHO 西太平洋地域(WPRO)では、1997 年のカンボジアの症例を最後として、2000 年にポリオ根絶宣言がなされた。その後も各国で根絶に向けた取組が強化され、2016 年現在、野生株ポリオウイルスの流行国はパキスタンとアフガニスタンの 2 カ国のみになった。

ポリオウイルスには 1, 2, 3 型の 3 種類があるが、その中でも 2 型の野生株ポリオウイルスについては、1999 年の症例を最後に世界中で検出されていない。ポリオ根絶に向けた戦略「ポリオ根絶最終段階戦略計画 2013-2018 (The Polio Eradication & Endgame Strategic Plan 2013-2018)」¹⁾ では、2 型のポリオウイルスについては野生株に加えてワクチン株についても、病原体管理を徹底し、不必要なポリオウイルスの廃棄とポリオウイルス保有施設リストの提出が求められている。

上記計画に基づいて、厚生労働省は世界的なポリオ根絶に向けた、不必要なポリオウイルスの廃棄を求めている (厚生労働省健康局結核感染症課長通知：健感発 1211 第 1 号 平成 27 年 12 月 11 日)²⁾。詳細については、原文を確認して欲しい。内容を抜粋すると、以下の 3 点となる。

- ①感染性のある 2 型野生株ポリオウイルスを含む材料は可能な限り平成 27 年 12 月末までに、遅くとも平成 28 年 1 月末までに廃棄すること
- ②感染性のある 2 型ワクチン株ポリオウイルスを含む材料については、平成 28 年 7 月末までに廃棄すること
- ③これらの期日を超えて、感染性のあるポリオウイルスを含む材料を継続して保管する必要がある場合は、上記期日までに施設等の責任者から厚生労働省健康局結核感染症課に連絡をすること。

参考資料

1. Global polio eradication initiative: Polio Eradication and Endgame Strategic Plan 2013-2018:
<http://www.polioeradication.org/resource/library/strategyandwork.aspx>
2. 世界的なポリオ根絶に向けた、不必要なポリオウイルスの廃棄について (周知及び協力依頼) (厚生労働省健康局結核感染症課長通知：健感発 1211 第 1 号 平成 27 年 12 月 11 日 都道府県・保健所設置市・特別区 衛生主管部(局)長宛)。 http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/polio/dl/topics_20151211.pdf

§ 2016 年 日本ワクチン学会第 11 回高橋賞・第 5 回高橋奨励賞 応募要綱

2016 年日本ワクチン学会第 11 回高橋賞・第 5 回高橋奨励賞の候補者を公募いたします。応募希望者は下記の要綱に従ってご応募下さい。

応募期間：2015 年 11 月 1 日(日)～2016 年 3 月 31 日(木) 必着
※必ず配達記録の残るものでご応募下さい。

応募書類送付先：〒169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号新宿ラムダックスビル
(株) 春恒社社会事業部内 日本ワクチン学会係
TEL：03-5291-6231/FAX：03-5291-2176

1. 本賞の趣旨

日本ワクチン学会高橋賞は、高橋理明先生の開発された水痘ワクチンが、財団法人（現 一般財団法人）阪大微生物病研究会によりほぼ全世界で実用化された事を記念し創設された。創設にあたり、同財団より高橋記念基金が当学会に寄贈された。日本ワクチン学会高橋賞は、本学会の創立趣旨に沿って学問的・実学的に卓越した貢献をされた方を授賞の対象とする。

2. 対象者

- 1) 本賞は本学会の創立趣旨に沿ってワクチンに関する基礎研究、臨床応用、製造開発、疫学研究において卓越した貢献をされた方を授賞の対象とし、学術功労賞である「高橋賞」と、若手奨励賞である「高橋奨励賞」の二つの賞を設置する。
- 2) いずれの賞も原則として本学会会員とする。
- 3) 「高橋賞」は、年齢制限を設けない。若手奨励賞である「高橋奨励賞」は2016年1月1日時点で45歳未満の者を対象とする。

3. 応募方法

以下の書類を揃えて(株)春恒社学会事業部内 日本ワクチン学会係まで、2016年3月31日（木）までに必着でお送り下さい。

- 1) 本会所定の申請書【原本とコピー7部を添付】
 - 2) 研究業績の要約（高橋賞 2,000字以内、高橋奨励賞 1,000字以内）【原本とコピー7部を添付】
 - 3) 研究業績リスト（別紙1枚以内）【原本とコピー7部を添付】
 - 4) 関連研究業績別刷（5編以内）各8部
 - 5) 自薦の場合には本人の研究についての抱負、他薦の場合は本学会会員の推薦状1通（双方ともにA4版1枚まで）【原本とコピー7部を添付】
- ※ 1)～5)までを1セットとし、計8部を送付すること。
※ 研究業績の要約の文中に、関連論文（研究業績リスト）の論文番号を記入すること。
※ 応募書類は、当学会ホームページ（<http://www.jsvac.jp/>）よりダウンロードすること。

4. 選考と発表

- 1) 選考は理事長に加えて理事会で承認された学会員6名の合計7名で構成する選考委員会で行い、委員会での決定事項は理事会での承認を必要とする。
なお、受賞者が選考委員会で決まらなかった場合は理事全員の意見を求める。
- 2) 受賞は原則毎年3名とし、高橋賞1名、高橋奨励賞2名とする。
- 3) 日本ワクチン学会総会にて理事長より盾及び副賞（高橋奨励賞は賞状及び副賞）を授与する。
- 4) 高橋賞および高橋奨励賞受賞者は総会において記念講演を行うとともに当学会が指定する刊行物に総説を発表する。
- 5) 高橋奨励賞受賞者は翌年度のVaccine Global CongressのJSV枠プログラムに参加し発表を行うことが望ましい。
- 6) 受賞者には2016年8月末までに通知を行う予定。

以上

§ 2015 年度 第 1 回 日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2015 年 4 月 24 日（金）16：00～18：00

場 所：AP 品川アネックス 1 階 ルーム D

出席者：【理事長】岡部信彦

【理 事】安部 忍、石井 健、岡田賢司、喜田 宏、五味康行、多屋馨子、千北一興、
中野貴司、長谷川秀樹、吉川哲史

【推薦理事】中山哲夫

【理事資格】尾崎隆男 [第 19 回学術集會会長]

【ワグザバー】武下文彦 [第 20 回学術集會会長]

【記 録】稲田至朗 [(株) 春恒社]

欠席者：齋藤昭彦、真鍋貞夫 以上理事 倉根一郎、宮崎千明 以上監事

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から 2014 年度第 3 回理事会議事録が提示され、異議なく承認された。

2) 一般経過報告

事務局から 2015 年 3 月 31 日現在の会員数の現状を含む会員異動報告がされた。

3) 2014 年度会計決算報告

喜田宏財務担当理事から一般会計、高橋記念基金の決算報告書類および監事 2 名による監査報告書が提示された。各位異議なく承認された。

4) 第 18 回日本ワクチン学会学術集會報告

岡部信彦理事長が代理で報告を行った。有料参加者は 776 名、招待者を含めると 850 名であった。
会 期：2014 年 12 月 6 日（土）～12 月 7 日（日） 会 場：福岡国際会議場

5) 第 19 回日本ワクチン学会学術集會報告

尾崎隆男会長より以下の通り報告された。

テーマ：「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」

会 期：2015 年 11 月 14 日（土）～11 月 15 日（日） 会 場：名鉄犬山ホテル（愛知県犬山市）

特別講演：「水痘ワクチンの開発史と未来」・・・・・・・・・・・・・・・・・・浅野喜造先生

教育講演Ⅰ：「ワクチンを含む、がん免疫療法の最近の動向」・・・・・・・・・・葛島清隆先生

教育講演Ⅱ：「ワクチン関連トピックス 2015～ワクチンの有効性と安全性」・・・・多屋馨子先生

シンポジウムⅠ「ワクチン発展のために臨床家は何かができるか」

シンポジウムⅡ「ワクチンにより免疫はいかに構築されるか」

その他に教育セミナーは 9 演題、次期会長（武下文彦先生）講演を昨年に引き続き行う予定。

6) 第 20 回日本ワクチン学会学術集會報告

武下文彦次期会長より以下の通り報告された。

会 期：2016 年 10 月 22 日（土）～23 日（日） 会 場：京王プラザホテル（東京都新宿区）

会期と会場は上記の通り確定した。その他、トピック案、シンポジウム案および一般演題のテー

マ案について述べられた。

7) Vaccine 誌編集委員会報告

森康子担当理事から 2014 年度第 2 回 Vaccine 誌編集委員会と Vaccine 誌への今後の掲載予定について述べられた。また、Special Issue from JSV における執筆依頼について報告され、その中の“麻疹における総説”については“麻疹排除”に変更する。

8) ニュースレターについて

多屋馨子担当理事から Vol.28 の掲載内容について報告された。

9) 広報委員会報告

審議事項 (7) で審議する。

10) 高橋賞応募状況報告

岡部信彦理事長から 2015 年度第 10 回高橋賞および第 4 回高橋奨励賞候補者について以下の通り報告された。

■第 10 回日本ワクチン学会高橋賞候補

庵原 俊昭 先生 (国立病院機構 三重病院 院長)

「各種ワクチン予防可能疾患の臨床免疫学および疫学の研究」

推薦者：森 康子 先生 (神戸大学大学院医学研究科 臨床ウイルス学分野)

◆第 4 回日本ワクチン学会高橋奨励賞候補

原 めぐみ 先生 (佐賀大学医学部社会医学講座予防医学分野 講師)

「地域在住高齢者および施設入所高齢者におけるインフルエンザワクチンの有効性評価」

推薦者：廣田 良夫 先生 (医療法人相生会 臨床疫学研究センター長)

11) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫担当理事から、第一三共 (株)、サノフィ (株) と進めている 4 種混合ワクチン追跡調査の進捗状況について報告された。

12) 予防接種推進専門協議会活動報告

吉川哲史理事より第 3 回予防接種推進専門協議会全体会議について報告された。

- ・当協議会は発足時に各学会からの寄付金により運営していた。今後はホームページを立ち上げることもあり、各学会から 3 万円 / 年の協力金を依頼することが既に決定されており、各学会への協力金依頼文書が作成された。
- ・吉川哲史理事は本学会と日本ウイルス学会において当協議会担当者を務めており、当協議会の代表である岩田敏先生より兼任を避けるよう要請された。これを受けて今後は日本ワクチン学会の当協議会担当者は中山哲夫理事とすることが提議された。各位異議なく承認された。吉川哲史理事は本学会では副担当者となる。

13) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

前回理事会以降に開催はされていない。

14) 第7回韓国ワクチン学会 (KVS)

- ・岡部信彦理事長より2015年4月10日に開催されたKVSについて報告された。KVS代表 Joon Haeng Rhee 先生と今後も本学会とKVSは交流を深めていくことを確認した。第18回学術集会で Joon Haeng Rhee 先生を招待したように、第19回学術集会でもKVSの先生を招待する。
- ・石井健理事より第9回国際ワクチン学会 (ISV) について報告された。KVSが2015年10月17日から20日に韓国ソウルで第9回国際ワクチン学会 (ISV) を開催する。KVSは本学会から多数の参加者が来るよう切望している。第9回ISVの周知をニュースレターやホームページにて行うこととした。第9回ISVではJSVセッションが設けられている。演者の選定を主催者側から要請されるので、その際は石井健理事が対応する。

15) 麻疹排除認定について

岡部信彦理事長より報告された。2015年3月27日にWHO西太平洋地域事務局が、日本、カンボジア、ブルネイの3カ国について、麻疹の排除状態であることを認定した。2014年に認定されたオーストラリア、韓国、マカオ、モンゴルに加え、WHO西太平洋地域で麻疹排除を達成したのは7カ国(地域)となった。

2. 審議事項

1) 2015年度予算について

喜田宏財務担当理事より2015年度予算修正案が提示された。ワクチン推進ワーキンググループが進める4種混合ワクチン追跡調査に関する収入と支出の項目が追加された。各位異議なく承認された。

2) 理事選挙管理委員の選出について

委員長に長谷川秀樹先生、委員は多屋馨子先生、中山哲夫先生が選出された。

3) 会員名簿の作成について

事務局より名簿調査票の修正案が提示され、各位異議なく了承された。例年通り理事選挙書類と一緒に発送する。

4) 高橋賞選考委員会委員の一部改選について

高橋賞選考委員3名の改選にあたり選挙を行い、齋藤昭彦先生(新任)、喜田宏先生(新任)、多屋馨子先生(新任)が上位得票となり、承認された。

5) 多年度会費滞納者の退会処分について

3年以上会費滞納者(36名)の一覧が配布され、例年通り滞納者に再度会費請求(5月末)発送を行い本年6月末日までに入金のない場合は、退会処分とすることが承認された。

6) 第21回日本ワクチン学会学術集会について

第21回学術集會会長については基礎研究系から候補者を選出することを確認した。

7) ホームページ刷新について

事務局からのホームページ(HP)刷新についての見積書が2例提示された。見積書だけでは具体性に欠けるため議論し難いので、理事会後に理事にメールで見積内容のモデルとなるHPを提示する。同時に現在の本学会HPに掲載されている情報で、HP刷新後にも必要とされるものについて集

計する。そのうえで HP 上に掲載する情報の精査を広報委員会、理事長で行い、事務局が見積書を再度作成する。予算の承認はその後に行うこととした。

8) COI 規定の件

モデルとなる COI 規定が提示された。作成を理事数名であたることとし、その人選については後日決定する。

9) 国際ワクチン学会 (ISV) の件

報告事項 (14) で審議を行った。

10) 「ワクチンの事典」改訂について

中山哲夫理事よりワクチンの事典改訂の草案が提示された。タイトルについては「ワクチン」を候補として今後の検討事項とする。基礎研究系、臨床応用系、製造開発系、疫学系でそれぞれ 2015 年 12 月を目途に執筆者を選定する。2016 年中に刊行を目標とする。本件に関する編集委員は以下 9 名が選出された。

〔敬称略、草案の記載順〕

岡部信彦、中山哲夫、岡田賢司、齋藤昭彦、中野貴司、吉川哲史、長谷川秀樹、石井健、多屋馨子

11) 滋賀医大からの要望書提出依頼の件

滋賀医科大学動物生命科学研究センターの小笠原一誠先生より、本学会から滋賀医科大学が「共同利用・共同研究拠点」となるよう要望する旨の書面を発行するよう依頼があった。喜田宏理事より詳細が説明され、依頼された内容の要望書を作成し、小笠原一誠先生へ提出することとした。

以上

2015 年 4 月 24 日
日本ワクチン学会
理事長 岡部 信彦

§ 2015 年度 第 2 回 日本ワクチン学会 理事会議事録

日 時：2015 年 9 月 7 日 (月) 16:00 ~ 18:00

場 所：AP 品川 9 階 ルーム P+Q

出席者：【理事長】岡部信彦

【理 事】岡田賢司、喜田 宏、五味康行、齋藤昭彦、多屋馨子、千北一興、中野貴司、
長谷川秀樹、真鍋貞夫、森 康子、吉川哲史

【推薦理事】中山哲夫

【理事資格】尾崎隆男 [第 19 回学術集会会長]

【監 事】倉根一郎

【オブザーバー】西條政幸 [Vaccine 誌編集委員長]、武下文彦 [第 20 回学術集会会長]

【記 録】稲田至朗 [(株) 春恒社]

欠席者：安部 忍、石井 健 (以上理事) 宮崎千明 (監事)

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から 2015 年度第 1 回理事会議事録が提示され、異議なく承認された。

2) 一般経過報告

事務局から 2015 年 3 月 31 日から 8 月 28 日までの会員異動報告がされた。

3) 2015 年度会計中間報告

喜田宏財務担当理事から 2015 年 1 月 1 日から 6 月 30 日までの一般会計の説明がなされた。概ね予算通りに推移していることが報告された。

4) 第 19 回日本ワクチン学会学術集会報告

尾崎隆男会長より以下の通り報告された。

テーマ：「基礎研究者と臨床家のコラボレーション」

会 期：2015 年 11 月 14 日(土)～11 月 15 日(日) 会 場：名鉄犬山ホテル(愛知県犬山市)

特別講演：「高橋理明先生が開発された水痘ワクチンについて」・・・浅野喜造先生

教育講演Ⅰ：「がんワクチンについて」・・・葛島清隆先生

教育講演Ⅱ：「ワクチンのトピックス」・・・多屋馨子先生

シンポジウムⅠ「ワクチン発展のために臨床家は何かができるか」

シンポジウムⅡ「ワクチンにより免疫はいかに構築されるか」

その他に教育セミナーは 9 題、次期会長(武下文彦先生)講演を昨年に引き続き行う。一般演題は 91 題。韓国ワクチン学会会長の Dr.Joon Haeng Rhee の招待講演を予定している。抄録集は 10 月中旬に発送を行う。

5) 第 20 回日本ワクチン学会学術集会報告

武下文彦次期会長より以下の通り報告された。

会 期：2016 年 10 月 22 日(土)～23 日(日) 会 場：京王プラザホテル(東京都新宿区)

会期と会場は上記の通り確定した。その他、トピック案、シンポジウム案および一般演題のテーマ案について述べられた。

6) Vaccine 誌編集委員会報告

西條政幸 Vaccine 誌編集委員長から Vaccine 誌の掲載予定および Special Issue from JSV の進捗状況について報告された。また学術集会での講演者の先生に対する執筆依頼を、これまでは学術集会終了後に行っていたが、今後は学術集会より前に行うことを決定した。

7) ニュースレターについて

多屋馨子、中野貴司担当理事から Vol.28 の掲載内容について報告された。

8) 広報委員会報告

齋藤昭彦担当理事より 10 月 18 日～20 日に韓国ソウルで開かれる国際ワクチン学会への、会員のさらなる参加を会員へ周知することが提案された。後日会員へメール配信を行うこととした。

9) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫担当理事から、DPT 0.5ml の臨床試験、DPT/IPV4 種混合ワクチン接種後の抗体価の推

移について報告された。DPT/IPV4 種混合ワクチン接種後における抗体価の推移についての臨床試験に際して、申請時の抗体価と比較する必要がある、この事項が臨床試験のプロトコールに入っていなかった。申請時の抗体価を開示して頂くために3社（第一三共、サノフイー、北里第一三共ワクチン）へのワクチン推進ワーキンググループからの趣意書を提出する必要がある。趣意書提出について各位了承した。後日、メール理事会にて趣意書について審議を行うこととした。

10) 予防接種推進専門協議会活動報告

中山哲夫担当理事より第27、28、29回予防接種推進専門協議会および第3回予防接種推進専門協議会全体会議について報告された。

11) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会

岡田賢司担当理事より、全国公衆衛生関連学協会連絡協議会の役員選挙について報告された。

12) 滋賀医大へ要望書提出の件

滋賀医科大学動物生命科学研究センターの小笠原一誠先生より、本学会から滋賀医科大学が「共同利用・共同研究拠点」となるよう本会が要望する旨の、書面を発行するよう依頼があったことを受け、5月に要望書を提出したことが報告された。

13) 会員名簿作成について

事務局から10月下旬～11月上旬の発行を予定していることが報告された。

2. 審議事項

1) トラベルアワードについて

岡部信彦理事長より本年度のトラベルアワードについて報告された。受賞者と演題は以下の通り。

◆奥野 英雄（国立感染症研究所 感染症疫学センター）

Acute encephalitis and encephalopathy associated with vaccine preventable diseases in children, Japan, 2006-2013.

◆神沼 智裕（大阪大学大学院医学系研究科）

Exosome targeting DNA vaccination enhances antigen-specific CD8 T cell responses

◆日下部峻斗（国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所）

Application Of HP-b-CD for Mucosal Adjuvant

◆服部 文彦（藤田保健衛生大学病院小児科）

Safety of Rotavirus Vaccine for Very Low Birth Weight Infants in NICU

受賞者には副賞10万円を授与した。受賞者は第19回日本ワクチン学会学術集会で一般演題として受賞演題の発表を行う。

2) 高橋賞選考委員会報告

岡部信彦理事長から委員会の審議結果が報告された。高橋賞応募が1件（庵原俊昭先生）、高橋奨励賞応募が1件（原めぐみ先生）あり、委員会で審議の結果、最終候補者として理事会に諮ること

とした。これを受けて審議を行い、2名とも承認された。高橋賞については総会終了後、高橋賞授賞式と受賞講演が行われる。2012年度第2回理事会において、高橋奨励賞受賞者も同様に受賞講演を行うことで一致していたが、第19回学術集会においては行わない。高橋賞内規変更を含め、第20回では高橋奨励賞受賞講演を行うか今後検討していく。

3) 理事選挙結果について

長谷川秀樹選挙管理委員長より以下の通り報告された。

基礎研究系	(当選)	西條 政幸	国立感染症研究所
	(当選)	谷口 孝喜	藤田保健衛生大学
	(次点)	清野 宏	東京大学医科学研究所
臨床応用系	(辞退)	庵原 俊昭	国立病院機構三重病院
	(当選)	大石 和徳	国立感染症研究所
	(次点)	熊谷 卓司	恒仁会 くまがい小児科
	(次点)	西村 直子	江南厚生病院
	(次点)	菅 秀	国立病院機構三重病院
製造・開発系	(当選)	城野洋一郎	(一財)化学及血清療法研究所
	(辞退)	奥野 良信	(一財)阪大微生物病研究会
	(当選)	通山 哲郎	(一財)阪大微生物病研究会
	(次点)	長井 正昭	北里第一三共ワクチン(株)
疫学系	(当選)	神谷 元	国立感染症研究所
	(次点)	谷口 清州	国立病院機構三重病院

臨床応用系では次点者3名が同票数となり、選挙要領に従い理事会で投票を行った。投票前に上位得票者を当選とし、同数の場合は決選投票を行い、再度同数となった場合は理事長が決定することで合意した。開票は倉根一郎監事立会いのもと行われ、西村直子先生〈江南厚生病院〉が選出された。後日就任依頼を送ることとした。次点.1は菅 秀先生、次点.2は熊谷卓司先生となった。

また、岡部信彦理事長より安部忍理事から海外転勤に伴う理事辞任の申し出があったことが報告され、各位異議なく了承した。これを受けて会則の“理事に欠員が生じた場合、直近の選挙の次点者のうち欠員と同じ専門分野の者をもって補うものとする”に従い長井正昭先生〈北里第一三共ワクチン(株)〉に理事就任依頼を行うこととした。

4) 第21回日本ワクチン学会学術集会について

候補者を第19回学術集会までに推挙する。

5) ホームページ刷新について

今後の方針を固め次回理事会にて継続審議とした。

6) COI規定の件

岡部信彦理事長よりモデルとなるCOI規定が提示された。内容の検討を各理事が行い、これに修正を重ねて完成させることとした。

7) 「ワクチンの事典」改訂について

中山哲夫理事よりワクチンの事典改訂の概要、刊行スケジュールおよび原稿執筆依頼案が提示された。2016年10月刊行に向けて進めていく。

8) 医学会総会の件

会員からの問い合わせを受け、医学会加入について審議を行った。加入するメリットやデメリット、費用を調べ再度検討することとした。

9) その他

特になく閉会した。

以上

2015年9月7日
日本ワクチン学会
理事長 岡部 信彦

§ 2015年度第3回日本ワクチン学会理事会

日 時：2015年11月13日（金）16：30～18：30

場 所：名鉄犬山ホテル（6階リビエール）

出席者：【理事】 岡部信彦（理事長）、岡田賢司、尾崎隆男（会長）喜田 宏、五味康行、多屋馨子
千北一興、長井正昭、中野貴司、中山哲夫（推薦理事）、長谷川秀樹、真鍋貞夫

【オブザーバー】 西條政幸 [Vaccine 誌編集委員長]、武下文彦 [第20回学術集會会長]

欠席者：石井 健、齋藤昭彦、森 康子、吉川哲史（以上理事）倉根一郎、宮崎千明（以上監事）

1. 報告事項

1) 前回議事録の確認

岡部信彦理事長から2015年度第2回理事会議事録の報告がされ、修正事項があれば本理事会終了後までに申し出るよう要請があった。（申し出はなく承認された。）

2) 一般経過報告

事務局（春恒社）より前回理事会集計時点（2015年8月28日）から10月31日までの会員数増減について報告された。

3) 2015年度一般会計中間報告

喜田 宏理事から2015年度一般会計および高橋記念基金会計の中間報告（2015年9月30日現在）がされた。

4) 第19回日本ワクチン学会学術集會報告

尾崎隆男会長から第19回日本ワクチン学会学術集會開催にあたり挨拶が述べられた。

5) 第20回日本ワクチン学会学術集會報告

武下文彦次期会長より第20回の開催準備の進捗状況が報告された。

6) Vaccine 誌編集委員会報告

西條政幸委員長から 2015 年度第 2 回 Vaccine 誌編集委員会の報告、Vaccine 誌への今後の掲載予定について報告がされた。続いて Vaccine 誌特別号 Special Issue from JSV が刊行され、冊子体を事務局で数冊保管し、関係する官公庁、協賛企業、ワクチン産業協会などに寄贈することが提案された。寄贈先については岡部信彦理事長、西條政幸編集委員長が協議のうえ決定し、学会として保管分、寄贈分として 10 部程度購入することとした。

7) ニュースレターについて

中野賢司担当理事から Vol.29 の掲載内容について報告がされ、各位異議なく了承した。

- ① 第 19 回日本ワクチン学会学術集会を終えて
 - ② ワクチン関連トピックス
 - i. 髄膜炎菌感染症と予防ワクチン
 - ii. ポリオ関連
 - ③ 第 11 回日本ワクチン学会高橋賞・第 5 回高橋奨励賞募集のご案内
 - ④ 各種会告
- 12 月発刊を予定している。

8) 広報委員会報告

報告事項は特になし。

9) ワクチン推進ワーキンググループ活動報告

中山哲夫理事より、前回理事会後にメール理事会にて承認された、3 社（第一三共、サノフィー、北里第一三共ワクチン）へのワクチン推進ワーキンググループからの趣意書を提出したことが報告された。

10) 厚労省ワクチン関係会議報告

岡部信彦理事長より厚労省厚生科学審議会の、予防接種・ワクチン分科会および関連する委員会等の活動状況、審議事項について報告された。

11) 予防接種推進専門協議会活動報告

中山哲夫担当理事から第 30 回予防接種推進専門協議会の内容について報告がされた。子宮頸がん予防ワクチン（HPV ワクチン）の接種勧奨再開に向けて、日本産婦人科学会から再開を求める声明を出す。予防接種推進専門協議会からは関連学会をまとめて要望することとした。また、日本臨床ウイルス学会が加盟することとなった。

12) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会（全公連）

岡田賢司担当理事より平成 27 年度全公連総会について報告された。昨年 8 月 22 日開催のワークショップ「子どもの健康リスクを考える」で有意義な議論が行われ、ワーキンググループの議論のまとめも作成された。これを踏まえ、今年度も引き続き同様のテーマでワークショップなどを開催し、社会格差の広がりや子供の教育・健康に深刻な影響を与えつつあることなどを念頭におきながら、2～3 年後を目途に提言をまとめることが提案され、承認された。

13) 「ワクチン」編集について

中山哲夫理事より、目次、執筆者について報告された。概ね執筆者には内諾を得ている。腸チフス、

コレラワクチンの執筆者のみ内諾が取れていないので、感染研に執筆者の選出を依頼することとした。

2. 審議事項

1) 第 21 回学術集會会長選出の件

岡田賢司理事（福岡歯科大学）が推挙され、各位了承し総会に諮ることとした。

2) 2016 年度予算案

喜田 宏財務担当理事から 2016 年度一般会計および高橋記念基金会計予算案について、説明がなされ承認された。

3) 高橋賞内規変更について

以下の通り変更することが承認された。

15. 「高橋賞」受賞者は受賞総会にて受賞講演を行うものとし、原則として当学会が指定する刊行物に総説を発表する。 16. 「高橋奨励賞」受賞者は翌年度の Vaccine Global Congress の JSV 枠プログラムに参加をするものとし、副賞はその旅費に充てるものとする。	15. 「高橋賞」および「高橋奨励賞」受賞者は受賞総会にて受賞講演を行うものとし、原則として当学会が指定する刊行物に総説を発表する。 16. 「高橋奨励賞」受賞者は翌年度の Vaccine Global Congress の JSV 枠プログラムに参加をする <u>ことが望ましい</u> 。
--	---

4) ホームページ刷新について

長谷川秀樹担当理事より、これまでの学会ホームページ刷新に関する過程が説明され、次期理事会への申し送り事項を確認した。

5) COI の規定について

岡部信彦理事長よりモデルケースを基に COI 規定を作成し、第 20 回の学術集會に向けて運用するよう進めていくことが述べられ、次期理事会で継続審議することとした。

6) 医学会総会の件

岡部信彦理事長より医学会加入により発生する費用が提示された。次期理事会で継続審議することとした。

7) その他

長谷川秀樹理事より、Vaccine & ISV について報告された。これまで Vaccine と ISV は Vaccine & ISV として合同開催をしてきたが、来年からは別々に米国と欧州で開催することとなった。これまでの JSV 枠は ISV 側に引き継がれる可能性がある。

以上

2015 年 11 月 13 日
日本ワクチン学会
理事長 岡部 信彦

§ 2015 年度第 1 回日本ワクチン学会 Vaccine 誌 編集委員会 議事録

日 時：2015 年 9 月 7 日（月）15 時 00 分～16 時 00 分

場 所：AP 品川 9 階 ルーム N

出席：【委員長】西條政幸

【委 員】大石和徳、奥野良信、城野洋一郎、谷口清州、多屋馨子、中野貴司、中山哲夫、
森 康子（担当理事）

【オブザーバー】岡部信彦

【事務局】稲田至朗〔春恒社〕

欠席：【委 員】清野 宏、熊谷卓司、小西英二

1. 前回議事録の確認

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がされ、修正事項があれば本委員会終了までに申し出るよう要請があった。（申し出はなく承認された。）

2. 掲載原稿の進捗状況（Vaccine 誌）

西條政幸委員長から以下の原稿の進捗状況について報告された。

- ① 【未入稿】 LC16m8 に関する最新の研究成果についての総説 （橋爪壯先生, 西條政幸先生他）
- ② 【未入稿】 第 15 回学術集会シンポジウム 1 より、「H5 パンデミックウイルスの最近の情報」
（迫田義博先生）
- ③ 【未入稿】 第 16 回学術集会「JSV/ISV Joint Symposium」よりシンポジウムレポート
（石井 健先生, 川口 寧先生, Mi-Na Kweon 先生, Nirajan Y.Sardesai 先生, Ann S.De Groot 先生）
- ④ 【未入稿】 第 8 回高橋賞「インフルエンザワクチンの有効性に関する疫学研究」 （廣田良夫先生）
- ⑤ 【未入稿】 第 17 回教育講演「ワクチン開発のストラテジー：HIV ワクチン・結核ワクチン開発の経験から」
（保富康宏先生）
- ⑥ 【入稿】 第 17 回学術集会 シンポジウム 1 『ウイルスベクターとワクチン』シンポジウムレポート
（中山哲夫先生）・・・※⑨, ⑩の原稿と共にエルゼアへ入稿する予定
- ⑦ 【入稿】 第 17 回学術集会 シンポジウム 1 『ウイルスベクターとワクチン』より「麻疹ワクチン
ウイルスベクター」 （中山哲夫先生）・・・※⑨, ⑩の原稿と共にエルゼアへ入稿する予定
- ⑧ 【入稿】 第 17 回学術集会 シンポジウム 1 『ウイルスベクターとワクチン』より「水痘ワクチン
ウイルスベクター」
（森 康子先生）・・・※エルゼア入稿済⑨, ⑩と共にオンライン公開予定
- ⑨ 【未入稿】 第 17 回学術集会シンポジウム「ウイルスベクターとワクチン」より「ワクチニア LC16
m 8 株（HCV,SARS,Influenza）ベクター」 （小原道法先生）
- ⑩ 【未入稿】 第 17 回学術集会シンポジウム「ウイルスベクターとワクチン」より「センダイウイルス

ベクターを用いたエイズワクチン」

(俣野哲朗先生)

- ⑪【未入稿】第17回学術集会 シンポジウム2「ワクチン有害事象の発症メカニズムと報告システム」より (谷口清州先生)
- ⑫【入稿】第17回学術集会 シンポジウム3「細菌ワクチンの効果と問題点」より (中野貴司先生)
※エルゼビア社入稿済み
- ⑬【未入稿】「沈降インフルエンザワクチン (H5N1 株) の安全性と免疫原性」神谷齊先生研究データの論文 (中野貴司先生)
- ⑭【入稿】第18回 (特別講演) より「予防接種の健全な普及への取り組み」 (横倉義武先生)
※業者による英訳をチェック中。
- ⑮【入稿】第18回 (高橋賞受賞講演) より風疹・先天性風疹症候群の疫学・臨床及び予防に関する研究 (植田浩司先生)・・・※リバイス中
- ⑯【未入稿】第18回 (教育講演) より BK-SE36 マラリアワクチンの開発 (堀井俊宏先生)
- ⑰【未入稿】第18回 (シンポジウム2より Vaccine epidemiology: Principles and Methods (S2-1～S2-7) とりまとめ (廣田良夫先生)
- ⑱【入稿】第18回 (教育セミナー3) より「免疫不全者への予防接種」～固形臓器移植患者と免疫抑制薬使用中患者を中心に～ (宮入 烈先生)・・・※査読中
- ⑲【入稿】第18回 (教育セミナー5) より「水痘ワクチン定期接種化」その効果と今後の課題 (吉川 哲史)・・・※査読中

未入稿の原稿については執筆者にリマインドを適宜行う。岡部信彦先生への執筆依頼、第17回特別講演「2012-2013年の麻疹風疹対策について」を取消し、Special Issue from JSVへ「measles elimination (麻疹排除)」を投稿していただくこととした。

3. 今後の掲載予定と執筆依頼について (Vaccine 誌)

学術集会終了後に行っていた特別講演やシンポジウム演者への執筆依頼を、学術集会前に行っていくことが、2013年度第1回 Vaccine 誌編集委員会で決定されている。これに従い後日メール委員会にて執筆依頼について審議する。その他の執筆依頼については次回委員会で検討することとした。

4. Vaccine 誌 Special Issue from JSV 進捗報告

西條政幸委員長より Special Issue from JSV の概要、進捗状況について報告された。応募が19論文あり、うち16論文を掲載する予定。この中で俣野哲朗先生から投稿された論文が、Vaccine 誌で執筆依頼をしている論文と内容が重複しているので、Vaccine 誌のほうは脱稿済の扱いとする。

以上

§ 2015年度第2回日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会議事録

日時：2015年11月13日(金) 15:30～16:30

会場：名鉄犬山ホテル 1F みやび

出席者：西條政幸（委員長）、大石和徳、奥野良信、城野洋一郎、熊谷卓司、多屋馨子
中野貴司、中山哲夫、岡部信彦（オブザーバー）

事務局：稲田至朗（春恒社）

欠席者：清野 宏、小西英二、谷口清州、森 康子（担当理事）

1. 前回議事録の確認

西條政幸委員長から前回議事録についての報告がされ、修正事項があれば本委員会終了までに申し出るよう要請があった。申し出はなく承認された。

2. 執筆依頼について

事前にメール審議を行った第19回学術集会演者への執筆依頼について、【別添資料】に基づいて確認を行った。シンポジウムの執筆依頼については各演者がそれぞれ執筆し、座長はシンポジウムの取り纏めを執筆する、従来通りの依頼をすることとした。

3. Special Issue from JSV について

西條政幸委員長より、論文16編を掲載することが報告された。続いて、冊子体の保管、寄贈先について審議された。事務局で数冊保管し、関係する官公庁、協賛企業、ワクチン産業協会などに寄贈することが提案された。編集委員会からの提案として、理事会に諮ることとした。

4. 今後の掲載予定について

【別添資料】に基づいて、前回編集委員会から進捗のあった論文について報告された。

- 1) 第17回学術集会のシンポジウム「ウイルスベクターとワクチン」（中山哲夫・森 康子）がもうじきエルゼビア社に入稿される。
- 2) 第18回学術集会の特別講演「予防接種の健全な普及への取り組み」（横倉義武）は査読結果の通知を行った。
- 3) 第18回教育セミナー「水痘ワクチン定期接種化：その効果と今後の課題」（吉川哲史）は査読結果の通知を行った。
- 4) 第18回教育セミナー「免疫不全者への予防接種」（宮入 烈）は現在査読進行中である。

以上

2015年11月13日
日本ワクチン学会 Vaccine 誌編集委員会
委員長 西條 政幸

§ 第 19 回日本ワクチン学会総会議事録

日 時：2015 年 11 月 14 日（土）13:10～13:40

場 所：名鉄犬山ホテル 2F 彩雲「A 会場」

総会議長：第 19 回日本ワクチン学会学術集会会長 尾崎隆男

1. 報告事項

1) 一般経過報告

岡部信彦理事長から、2015 年度活動状況と会員数現状報告がされた。

2) 理事選挙結果報告

長谷川秀樹理事から、2015 年に行われた理事選挙の結果および理事欠員による理事選出について報告された。

就任期間：2016 年 1 月 1 日～2019 年 12 月 31 日（4 年間）

当選分野	氏 名	所属先
基礎研究系	西條 政幸	国立感染症研究所
	谷口 孝喜	藤田保健衛生大学
臨床応用系	大石 和徳	国立感染症研究所
	西村 直子	江南厚生病院
製造・開発系	城野洋一郎	(一財) 化学及血清療法研究所
	通山 哲郎	(一財) 阪大微生物病研究会
疫学系	神谷 元	国立感染症研究所

辞任：(2015 年 9 月 7 日付)

製造・開発系 安部 忍 (一財) 阪大微生物病研究会

就任：(任期 2015 年 9 月 16 日～2017 年 12 月 31 日)

製造・開発系 長井 正昭 北里第一三共ワクチン（株）

3) 日本ワクチン学会高橋賞・高橋奨励賞受賞

岡部信彦理事長から第 10 回高橋賞は庵原俊昭先生に、第 4 回高橋奨励賞は原めぐみ先生に授与されることが決定し、この総会終了後に受賞式を執り行うことが報告された。

4) 日本ワクチン学会トラベルアワード

岡部信彦理事長がトラベルアワードの概要説明と受賞者の報告を行った。受賞者は以下の 4 名。

- ・奥野 英雄 国立感染症研究所感染症疫学センター
- ・神沼 智裕 大阪大学大学院医学系研究科
- ・日下部峻人 医薬基盤・健康・栄養研究所
- ・服部 文彦 藤田保健衛生大学小児科

2. 議 事

1) 2014 年度決算および 2014 年度監査報告について

喜田 宏理事から 2014 年度決算報告があり、引き続き宮崎千明監事から 2014 年度会計監査報告があり、異議なく承認された。

2) 2016 年度予算案について

喜田 宏理事から 2016 年度予算案について説明され、承認された。

3. 第 21 回学術集会会長の推挙

理事会から福岡歯科大学 岡田賢司先生が推挙され、承認された。引き続き、岡田賢司先生から挨拶がなされた。

4. 次期会長挨拶

第 20 回日本ワクチン学会学術集会 武下文彦次期会長より挨拶がなされた。

5. 第 19 回学術集会会長挨拶

第 19 回日本ワクチン学会学術集会 尾崎隆男会長より挨拶がなされた。

※総会終了後、高橋賞および高橋奨励賞の受賞式が執り行われ、引き続き高橋賞受賞記念講演が行われた。

以上

平成 27 年 11 月 14 日
第 19 回日本ワクチン学会学術集会
会長 尾崎 隆男

日本ワクチン学会ニュースレター 第 29 号
2016 (平成 28) 年 2 月 15 日発行

発行人 日本ワクチン学会

日本ワクチン学会事務局
〒 210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3-25-13
川崎市健康安全研究所
日本ワクチン学会理事長 岡部 信彦
<http://www.jsvac.jp/>
<学会連絡先・入退会・住所変更・年会費>
〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号
新宿ラムダックスビル
(株) 春恒社 学会事業部内
日本ワクチン学会係
TEL : 03-5291-6231 / FAX : 03-5291-2176 / E-mail : jsvac@shunkosha.com